

令和3年度 第1回朝来市都市計画審議会 会議録

【日時】令和4年3月8日（火）13:00～14:30

【場所】朝来市役所本庁舎 4階 401号

【出席者】安枝英俊、中村正康、阿野真由美、森下恒夫、浅田郁雄、足立義美、横尾正信、高橋徹、澤田純一、木村浩之

【欠席者】松本智翔

【事務局】掃部直樹、井口幸彦、村上陽昭、井上雅徳

【業務委託事業者：ランドブレイン株式会社（LB）】甲斐友朗

1. 開会

2. 都市整備部長挨拶

部長： 平素は都市整備部の事業についてご理解とご支援を賜っていますことを重ねてお礼申し上げます。

都市計画審議会は長らく開催ができていなかったが、都市計画マスタープランと立地適正化計画を合わせた改定を今年度から行っていることから開催させていただいた。先日は、本日もご出席している安枝先生を中心に両計画の改定検討懇話会を開催したところであり今後、都市計画マスタープランと立地適正化計画ともに第三次朝来市総合計画に基づいて改定を進めていく予定である。

令和4年度にも数回会議を予定しているため、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

3. 出席者紹介

4. 会長および会長代理選出

事務局案として会長に安枝英俊委員、会長代理に中村正康委員を提案し、全会一致で就任いただく運びとなった。

会長： 近年、人口減少や少子高齢化社会、自然災害の多発など都市計画の在り方や意義そのものを考えることが迫られているように思う。

今回の会議は多様な方が参加いただいている。都市計画については社会課題に対応した検討も大事だが、朝来市の実情に即した計画とすることも大切だと思うため、皆様から活発なご意見をいただくことをお願いしたい。

また、議事録署名人に中村委員、森下委員を選出する。

4. 議題

(1) 現行朝来市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画概要について

LB： (資料1について説明)
(意見なし)

(2) 改定方針(案)について

事務局： (資料2について説明)
(意見なし)

(3) 基礎資料等について

- LB： (資料4について説明)
- 委員： 居住誘導区域の設定について、朝来市の各駅を中心に構成されているように思うが、山東地域については山東庁舎を中心に置く方がよいのではないか。
- 事務局： 居住誘導区域とは基本的に都市計画区域内に設けるものであるため、都市計画区域の設定にも関わる。ご意見いただいた山東地域の庁舎付近も含め、朝来市全体のまちづくりの考え方については今後も議論を深めていきたい。
- 委員： まちなかの計画を策定するにあたり、駅を利用して通勤などをするということはほとんどなく、車での移動が中心ということを考慮する必要があると考えている。
また、都市計画マスタープランと立地適正化計画がそれぞれ同じ計画期間ではないのはなぜか。
都市計画マスタープランは全市が対象で、立地適正化計画は都市計画区域が対象かと思う。そのため、都市計画区域を見直して、今までと同じ都市計画マスタープランの枠に当てはめて解決するというイメージになっているのかと思っている。そのため、計画と都市計画区域との関係を整理した方がよいと考えている。
また、資料4の道路の項目については新しい情報を共有する。
- 事務局： 計画期間については国の基準があり、都市計画マスタープランは10年、立地適正化計画は20年をめぐりに随時見直しという基準に沿って設定している。
- 会長： 朝来市においては、交通に関する視点も大切かと思う。
- 委員： 朝来市において、交通計画に紐づいた広域視点からの利便性を考慮する必要があるかと思うが、本審議会の議題には入るのか。
- 事務局： 交通については、個別計画である「朝来市地域公共交通網形成計画」との整合性を考慮したうえで、本審議会では都市計画・まちづくりの視点から議論したい。
- 委員： 資料1の中で示されていたように、道路ひとつを考えるうえでも朝来市だけではなく広域的な視点が大切ではないのか。
- 事務局： いただいたご意見について、今後の会議のなかで深めていきたい。

(4) アンケート調査について

- LB： (資料5について説明)
- 委員： 感想になるが、資料5のP8,9について、年代別に見た際に差が感じられる。つまり、現役世代と高齢者の間に乖離が見られる。これは問題点になりうるため、年代間の比較もしっかり行うべきかと思う。
- 事務局： ご意見を踏まえて今後議論を行いたい。
- 会長： 住みやすさの推移については、平成23年から令和元年にかけての時代的な変化、例えば公共交通や道路網が急激に進んだのか、コロナ禍の中で

テレワークなど在宅でも十分お仕事することができなど、評価の背景について分かれば教えてほしい。

LB： 住みやすさという言葉は抽象的なものであり、単純な因果関係はつかみにくいと考えている。そのため、例えば、子育て支援やシティプロモーションなどはじめ、市の複合的な取組の積み重ねの結果が住みやすさの評価につながっていると考えている。

会長： 20代の評価が低いのは都心部へ生活したいという思いが働いているからだと思うが、それ以降の年代は子育てや持ち家に対する施策、まちの雰囲気などが影響するかと考えられる。

会長： 重要度・満足度の関係についての意見だが、空き店舗については、店舗が空いていること自体でなく、大規模な店舗ができたことにより、近隣の徒歩圏で通っていた店がなくなることへの不満足感が反映されていると考えている。それぞれの生活圏にもう一度再整備をするということは難しいかと思うが、移動販売や乗り合いタクシーなどにより、車で大規模店舗にアクセスできない方の買い物をどう支援するかということは都市計画の中でも議論が必要かと考えている。

6-1 居住誘導とは、どういう項目なのか。これが平均を下回っているというのはどういうことなのか。

事務局： アンケートにおいては「住宅」分野の「駅周辺における居住の誘導」という形で設定した。駅周辺へ人を居住地区として誘導するというところに興味を持っておられないということかもしれない。

会長： 居住誘導の評価については、回答者の居住地により評価が違ふと思われるため、クロス集計を出した方が良いかと思う。

委員： 重要度が高く満足度が低い項目には、空き家など住宅に関する人が多いと感じている。また、重要度が低く満足度が低い項目にはバスの運行に関する項目があるのは、バスに乗る方が少ないためだと思う。

同じく重要度が低く満足度が低い項目にスポーツ施設がある。人口の減少とともにスポーツをする方は減ってくるかと思う。この「スポーツ施設」の重要度が低いのは、野球・サッカー場、体育館などの施設を利用する人口が減少しているから重要度が低いと認識されているのか、あるいは今流行りのグランドゴルフなどをする場所がスポーツ施設として認識されていないのか、どのように思われるか。

事務局： アンケートで設定した「スポーツ施設」については、「公園」分野の中で「スポーツ施設のある公園の整備」という意味合いで設定している。市民の中でイメージが統一されていないかもしれないが、野球・サッカー場、グランドゴルフをする場所など、包括的に評価いただくことを意図している。

委員： バスの運行本数について、重要度・満足度ともに低いですが、バスの運行本数を増やすのではなく、豊岡市でされているような個別ではなく小型や10人乗りのタクシーなどを運行して、市民の利便性を高めるといってお考えはあるのか。

LB： ご指摘いただいたバスなどでまかなえない部分について、「朝来市地域公共交通網形成計画」では将来ネットワークの考え方が整理されている。バスよりもさらに身近な部分として「ラストマイル」が設定されており、対応する交通機関としてタクシーや自家用車、グリーンスローモビリティなど多様な交通手段が設定されており、このような内容と整合を図りながら検討したいと思っている。

委員： 重要度・満足度について、空き家の活用の重要度が高く満足度が低い。

先程の説明の中で、田舎の住居が耐震補強しにくいという一文があったかと思うが、それにどのような根拠で判断しているのか知りたい。

会長： 朝来市において、伝統的な工法で作られた住宅など、単純に補強ができない住宅が多いかと思う。委員が専門であるので、ご意見いただければと思う。

委員： 耐震補強の困難性について、一点目として母屋が大きい、面積が広い、はなれなどが存在するなど、耐震しなければならない箇所が大きくなると金額がかさむということがある。

二点目として、新耐震基準適応前に建てられた建築について、新耐震基準に適応させるために多額な金額が必要ということがある。

会長： 空き家については、兵庫県が「空き家等活用促進特別区域の指定等による空き家等の活用の促進に関する条例」を令和3年に検討し、令和4年4月から施行される。そういったものの活用も必要かと思う。

7. 閉会